

# 自立活動における適切な指導の立案と記録の実践

— 中学校特別支援学級の個別の指導計画に着目して —

教育学研究科 教育実践創成専攻 教育実践開発コース 教師力育成分野 中島 涼子

## 1. はじめに

特別支援学校学習指導要領において自立活動の指導とは、「学校における自立活動の指導は、障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し、自立し社会参加する資質を養う」と示されている。ここに示されている「自立」とは、一般に捉えられているものとは異なる。一般的には、生活的、経済的、精神的、社会的な自立の4つを意味するだろう。しかし、ここに示されている「自立」とは、主体的な行動を行う上で、他人からの適切な支援を受けつつ、自分らしさを保ちながら、地域社会で生きていくことを意味する。この指導を行うのが自立活動なのである。教員はこの基本を理解しておく必要がある。

## 2. 問題の所在

自立活動は特別支援学校の特別の教育課程の指導領域であった。平成29年の学習指導要領の改訂に伴い、特別支援学級に在籍する児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒の教育課程上にも置つけられた。これにより全ての教員が自立活動の指導を担うこととなった。しかし、自立活動の課題として理解が浸透していないことが挙げられる。それについては、文部科学省(2023)が「通常学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について(通知)」中で、「自立活動の意義や指導の基本について十分に理解しないまま指導する教師や、それを指導する管理職の在り方等が課題となっている」と指摘している。

改めて自立活動の理解が浸透しづらい理由を考えてみると、ほとんどの教員が自立活動の授業を受けた経験がないことにあるのではないだろうか。古屋(2024)は、大学生の教育経験について次のように指摘している。大学生が、小・中学校や高校生時代に受けてきた各教科の授業、いわ

ゆる目標と内容が予め決められている授業は、受ける側の生徒自身が授業に適合するための努力をし続けてきた。しかし、自立活動の指導では、個々の目標や内容を設定するため、今まで経験してきた自身を授業に適合させるという授業とは異なることを理解する必要がある。

これは大学生だけに言えることではなく、既に学校で勤務している教員にも共通していることではないだろうか。

### 2-1 特別の教育課程に編成される自立活動

先に記したとおり、自立活動は元々特別支援学校の教育課程に設置された指導領域である。それは「障害による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するために必要な知識・技能・態度及び習慣を養うこと」を目的として設定されている。よって、当然ながら個々の実態に応じた指導となる。教科等の授業では、学習指導要領に示される目標、内容を全て取り扱うのに対し、自立活動は個々に応じた指導目標、指導内容を設定し、それに応じた指導を行う。教科等の授業の立案と自立活動の立案方法の根本的な違いがここにある。この違いを理解して自立活動の適切な指導に繋げることが求められる。

### 2-2 個別の指導計画の役割

自立活動の指導を立案する際に重要なのは、実態把握である。個々の実態に応じて、障害や特性に基づく長期目標と短期目標を設定し、指導内容を具体化する。そのために精緻な実態把握が不可欠である。それらの情報を記載する資料が個別の指導計画である。従来から特別支援学校では、個々に応じた指導のための個別の指導計画が作成され、児童生徒に適切な指導を行うための指針となっている。特別支援学校学習指導要領によれば「個別の指導計画は、教育課程を具体化し、障

害のある児童生徒一人一人の指導目標、指導内容及び指導方法を明確にし、きめ細やかに指導するために作成するものである」と定義されている。これは児童生徒の障害や特性に基づいて効果的な指導を行うための重要な役割である。

また、既に示した教育課程上の自立活動の位置づけにより、特別支援学級在籍の児童生徒、通級による指導を受ける児童生徒の個別の指導計画の作成が必須となった。ところが、以前から個別の指導計画が作成されているにもかかわらず、現場で十分に活用されていないという問題も指摘されている。(小坂・姉崎,2011) その理由の一つとして、通知表等の必須業務に直結していないことが挙げられるのではないだろうか。そこで個別の指導計画が教育現場で実際に活用されるためには、まずその個別の指導計画を実際に活用できる形に整理して作成する必要があると考えた。

## 2-3 自立活動の指導の実際

自立活動の時間における指導には、時間割に設定される「時間における指導」と突発的に発生する指導の二つの側面が存在すると考えている。後者のことを本研究では「アドホックな指導」と呼ぶことにする。

「時間における指導」とは、個別の指導計画から抽出された長期目標及び短期目標に沿って指導内容を具体化する計画的な指導である。具体的には、自立活動内容 6 区分 27 項目と照らし合わせ、指導内容を明確にした上で、適切な教材の選定を行い、自立活動の指導を立案する。自立活動の指導の原則は個別指導である。しかしながら、実際には集団で指導が行われることが多い。ただし集団指導で同一の活動をしていても、実は個々の目標に基づいて活動が進められていることを留意しておく必要がある。そして、それは集団で活動することが効果的である指導内容が設定されていることも留意しておきたい。この点が同一目的同一内容で行われる教科等の一斉授業とは異なる点である。

一方、「アドホックな指導」とは、学校の教育活動全体の中で突発的に発生する指導である。具体的な例としては、情動的の制御が難しい行動や、

障害や特性の受容に関して個別に対応する必要がある指導等が挙げられる。この指導は、状況に応じて臨機応変且つ柔軟に対応することが求められる。

「アドホックな指導」は、柔軟に対応しなければならない指導が多いため、記録の準備ができておらず、記録が十分に行われていない場合が多い。指導を行った教員が口頭で他の教員と共有する、手元の資料としてメモする、教務手帳に記録するにとどまっていることが多い。しかし、場合によっては、管理職への報告や保護者への連絡が必要な時がある。その際に記録が十分に行われていないことで、指導の緻密な情報が欠けてしまうことがある。それはこれまでの現場経験を踏まえ、記録の重要性を痛感してきたことにある。

## 3. 研究の目的及び方法

### 3-1 研究の目的

本研究では、自立活動の基盤となる個別の指導計画と記録に着目し、自立活動における適切な指導の立案を目的とした。個別の指導計画の様式の整理と作成、指導記録の実践を通して、自立活動の適切な指導に繋がる要因を明らかにしたい。

### 3-2 研究方法

- (1) 個別の指導計画の様式を整理し、効果的に活用できる形について検討し作成する。
- (2) 今回作成した個別の指導計画の様式を基盤にして時間における指導を提案し、実施する。
- (3) 指導記録の様式を作成し、指導内容等の記録を実施する。
- (4) 研究協力者への質問調査を実施する。

実施校

山梨県内中学校特別支援学級

期 間

令和6年5月～12月

## 4. 結果

### 4-1 個別の指導計画の様式の提案と実施

個別の指導計画の様式に決まりはない。各校、各教員に任されているが、主要な項目として、氏名や生年月日等の個人情報に加え、成育歴、保護者の願い、長期目標、短期目標を記すのが一般的である。

山梨県では「個別の教育支援計画の作成と活用の手引き」（令和6年改訂）において、県独自の様式で作成することが定めされている。この様式は、個別の指導計画と主要な項目が共通している。そこを踏まえ、実施校で既に作成されている「個別の教育支援計画」に「個別の指導計画」のシートに追加する形で様式を整理して作成した。そのシートを図1で示す。

上部の黄色い箇所が「個別の教育支援計画」と共通している項目であり、この部分はシートを同期させている。「個別の教育支援計画」と「個別の指導計画」の同期は、誤記入のミスを減らせること等、業務の負担の軽減化に繋がるだろう。さらに、「個別の指導計画」が常態的に活用しやすくなるよう、特に評価項目に着目した。その理由は二つある。一つは適宜評価を行い記載し、PDCAサイクルを回して様式を活用すること、もう一つは、評価項目を通知表の作成等の業務に直結させることで有益な活用繋げることである。つまり、評価を多頻度で行いPDCAサイクルを円滑に回して活用し、評価項目を充実させて必須業務に繋げる。このように個別の指導計画を有用できれば、適切な指導に繋がると考えた。

次に下部の緑色の箇所（評価項目）について示す。この項目は具体的かつ端的に評価できるよう、3段階評価と文章表記に分けた。前者では評価項目ごとに明確な評価を行い、後者では前者の項目以外の評価や補足を記入できるようにした。これにより、目標が明確化され、自立活動の時間における指導が適切に立案されることが期待される。

| 個別の指導計画   |                                                                                                                                                                                               |    |      |      |    |  |
|-----------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|----|------|------|----|--|
| 生徒氏名      | 生年月日                                                                                                                                                                                          | 学級 | 担任   | 交流道  | 担任 |  |
| 保護者氏名     | 〒番                                                                                                                                                                                            | 1年 | 1年   | 2年   | 2年 |  |
| お断り       |                                                                                                                                                                                               | 3年 | 3年   | 3年   | 3年 |  |
| 今までの取り組み  |                                                                                                                                                                                               |    |      |      |    |  |
| 指導計画      |                                                                                                                                                                                               |    |      |      |    |  |
| 指導計画      |                                                                                                                                                                                               |    |      |      |    |  |
| 本人・保護者の願い |                                                                                                                                                                                               |    |      |      |    |  |
| 教師の氏名     | 高松達彦                                                                                                                                                                                          |    |      |      |    |  |
| 現在の様子（4月） |                                                                                                                                                                                               |    | 短期目標 | 長期目標 |    |  |
| 行動の様子     | 進んで行動できている                                                                                                                                                                                    |    |      |      |    |  |
| 指導上の留意点   | <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>上部（黄色）<br/>山梨県版個別の教育支援計画と同期箇所</p> <p>下部（緑色）<br/>①は6区分より選択<br/>②3段階評価<br/>③文章表記</p> </div>                                             |    |      |      |    |  |
| 評価        | <div style="display: flex; justify-content: space-between;"> <div> <p>①</p> <p>A達成<br/>B半達成<br/>C未達</p> </div> <div> <p>②</p> <p>A達成<br/>B半達成<br/>C未達</p> </div> <div> <p>③</p> </div> </div> |    |      |      |    |  |

図1 個別の指導計画

### 4-2 自立活動の指導の提案と結果

#### i. 時間における指導の立案と記録の評価

自立活動における適切な指導を実施するためには、個別の指導計画に基づき設定された目標、自立活動の内容6区分27項目を十分に考慮した指導の立案が必要である。本研究では、指導の立案段階から3段階評価の項目を設定し、個別目標を具体化させた。そして活動後に端的に適宜評価を行えるように作成した。活動の様子や補足的な情報に関しては、文章表記欄に記載するようにした。また、共通項目を指導案にも同期できると考え、指導案のシートも追加した。この方法により、全てのシートに長期目標、短期目標が記載され、何度も目にすることで適切な指導への意識に繋がった。結果として、適切な指導内容の改善、指導の質が向上したことで、より効果的な自立活動の指導が期待される。

## ii. アドホックな指導の記録の提案と結果

アドホックな指導は、突発的に発生する指導のため、臨機応変な対応が求められる。そのような場面では、柔軟に指導を行うことが重要である。しかし、こうした指導は、記録がなければ指導内容の振り返りや改善が難しい。そこで本研究では、アドホックな指導の記録方法として、記録シートを作成し提案した。臨機応変に対応できるように、日時、場所、指導者名の項目欄、指導内容を書く自由度の高い大きな枠を作成した。その下に自立活動の内容表（6区分27項目）、指導のまとめを書く欄も設けた。その指導のまとめが、次の指導の支柱となることを目指して意図的に作成した。このアドホックな指導の記録が蓄積され、個々の生徒のエビデンスとなり、個別の指導計画に反映されて、時間における指導へと繋がっていくことを期待したい。

図2 記録シート

### 4-3 質問用紙による調査

《対象》

特別支援学級の担任及び自立活動の時間における指導にかかわる教員3名に実施した。

#### a. 実施日

令和6年12月19日（木）

#### b. 質問用紙による調査

【個別の指導計画に関する質問項目目】

・対象者1名

#### 1. 個別の指導計画の作成と自立活動の指導の立

案に関して（記述式）

#### 2. 個別の指導計画の様式内の評価項目について（記述式）

#### 3. 個別の指導計画のPDCAの見直し時期（選択式）

【自立活動記録シートに関する質問項目】

・対象者3名

#### 1. 記録シートの使いやすさについて（選択式）

#### 2. 記録シートの効果について（選択式）

#### 3. 記録シートの改善について（記述式）

#### 4. 記録シートの活用について（選択式）

#### 5. 記録シートの意見・感想（記述式）

### c. 調査結果

【個別の指導計画】

個別の指導計画をPDCAサイクルで回すことの重要性は学習指導要領にも明確に示されている。そこで、学校現場の実状を踏まえたうえで、効果的に活用するための見直しの時期と回数についての調査を行った。選択式で回答をしてもらった。

1、学期ごと（2～3回）

2、三者懇談の後（3～4回）

3、それ以上（5回以上）

回答者全員が2の三者懇談の後であった。確かに三者懇談は学校全体が懇談時期を設定して動き、交流級の懇談と合わせて総合的に考慮できるため妥当である。ただし、障害の特性による行動で問題が起きれば、見直しの回数を増やす必要が出てくるだろう。

次に個別の指導計画を作成するに当たり、「実際に何か困難だと感じているのか」また、「作成したものを常用的に活用していくためにどうすることが最善策であるのか」を検討するため「作成にかかった時間と記述の困難さ」続いて、今回導入した3段階評価の妥当性、その他実際に使用した感想、意見等を自由記述してもらった。

表1 個別の指導計画の様式の使用に関する評価

| 質問                                              | 回答                                                                                                                                                                                      |
|-------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 個別の指導計画の作成、自立活動の指導を立案をする上で、一番時間を要したのはどの作業でしたか。  | <ul style="list-style-type: none"> <li>・実態把握の期間（1年生なので1学期には特に時間がかかりました。）</li> <li>・指導計画の書き方（実態をどのように表現すべきか悩みました。）</li> </ul>                                                            |
| 個別の指導計画の評価について、文章表記と3段階評価に分けました。使用のご意見ををお願いします。 | <p>メリット）学習内容と評価をリンクさせているのがわかりやすく、3段階も明確でよい。</p> <p>デメリット）Cがついたものを見て生徒本人が「うわー、Cがある！！」と言っていたので、表現の仕方ですれが気になる生徒もいるところでしょうか？（教科評価もABCなので、それ合わせたABC評価で、私個人としてはよいと思います。）</p>                  |
| 個別の指導計画の様式に関して、自由にご意見や感想をお聞かせください。              | <p>情緒特別支援学級の保護者にとっては、授業の内容よりも生徒をどのように見取って自立活動につなげるかのほうが気になる場所だと思います。それを明確にし、かつ端的に表現するこの様式はとても有効だと感じました。個別の支援計画とのつながりもあることも分かるので、引き継ぐ際にもスムーズにいくのではないのでしょうか。来年度以降もこの様式を活用させていただきたいです。</p> |

表1の結果から現場における個別の指導計画を作成する際の困難な要因、それに伴う自立活動の立案の困難な要因の一部が見えてくる。

まず、実態把握に時間がかかった点については、小学校からの引継ぎにおける実態と入学後の生徒の実態に相違があったことが読み取れる。続けて「記載する際の表現が難しい」との回答もあり、ここに個別の指導計画の作成の困難さがみられた。

評価に関する回答では、教科評価と同様の3段階評価がわかりやすい点において、高評価だった。生徒の反応からも評価について理解できている様子が伺える。「授業内容よりも教員が生徒の様子を見取っているかが気になる場所だろう」という記述から、保護者の教師に対しての要望が垣間見れる。端的に表現することで、内容が明確化され保護者の理解に有効的だったとの結果を得ることができた。

#### 【自立活動の記録シート】

本研究において作成した記録シートを使用後に使用感や利便性、実用性の向上を目的に選択式の質問調査を行った。

表2 記録シートに関する質問（選択）

|                                         |
|-----------------------------------------|
| 自立活動の記録シートの様式が理解しやすかったか                 |
| 記録シート内に記載してある自立活動の内容項目（6区分27項目）は有用であったか |
| 自立活動の指導においてこの記録シートが有用であったか              |
| 記録シートの使用が生徒の状況把握に役立ったか                  |

上記（表2）の質問調査の回答は「1.はい 2.いいえ 3.どちらでもない」の選択式とした。上記の4つの質問の回答結果は、全員が「はい」と回答した。これは自立活動の指導の記録の重要性に

関して、有効性が認められたと言えるのではない  
だろうか。

次に記録シートに関する自由記述の質問調査  
について表3で結果を示す。

表3 記録シートの使用後の評価

| 質問項目                                                    | 回答（記述）                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
|---------------------------------------------------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 記録シートに追加して欲しい項目があれば教えてください。                             | 項目の欄にどの生徒がどの項目（6区分27項目）を目標としているかを書き込めると、他の先生が見ても分かりやすい。教師本人も意識しやすくなると思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                             |
| 記録シートで使いづらかった点や改善して欲しい部分があれば教えてください。                    | <ul style="list-style-type: none"> <li>・集団で書くシートはクラスの生徒数が多いので、もう少し広くてもいいかもしれない。</li> <li>・違うメモなどに記入した時に書き直す手間があった。</li> </ul>                                                                                                                                                                                                                                        |
| 記録シートを複数の教員が記入したことで、指導、指導計画について改善されたことがあったら具体的に教えてください。 | 教師間での生徒の見取りが共有でき、同じ視点をもって生徒を指導できるようになったと思う。                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 記録シートはどのような場で役に立ちそうですか                                  | <p>1. 面談資料 2. 成績表作成 3. 時間割変更のための教員変更の引継ぎ</p> <p>4. その他（指導の過程、様子が見て分かるので状況把握が簡単に行える。また、指導の中での改善点を考えるきっかけになるし、助言も頂きやすい。）</p>                                                                                                                                                                                                                                           |
| 記録シートに関して、その他のご意見や改善点等、アドバイスやアイデアをお願いします。               | <ul style="list-style-type: none"> <li>・個人用シート、集団用シートで例を入れながら作成してくださったので、とてもわかりやすく、活用できました。レイアウト等もよかった。項目について理解できていない先生には、それぞれの項目がどんな内容なのかを理解するところから始まるので、項目の例も一覧のようにして付ける必要があるのかもしれない。</li> <li>・自立活動について再度確認するきっかけになり、記録の大切さを改めて実感しました。ページ内に評価する項目があることで、内容の設定をする際も一人一人の特性をしっかりと考えながら行えました。</li> <li>・簡潔に記入できる記録シートで使いやすいと思いました。見やすくすっきりしていてとても良いと思います。</li> </ul> |

表3の記述から、自立活動の指導の経験が浅い教員であっても指導内容の6区分27項目を表にしたものが視覚的に確認できると、適切な指導に繋がること示唆される記述がみられた。教師間で生徒の見取りが共有できる点、指導の過程や様子を見て状況把握がすぐにわかるとの前向きな回答が多かった。記録シートが活用できる場面としては、全員が面談資料に回答した。成績表作成、

時間割変更による教師への引継ぎも、回答があった。その他の記述では、「指導の中での改善点を考えるきっかけになり、それに対する他の教師からの助言もしてもらいやすい」「教師間の指導の改善につながる」という記述から、記録シートが生徒の実態把握する資料になるだけでなく、教師の質の向上にも繋がる回答が得られ、興味深い結果を得ることができた。

## 5. 考察

### 5-1 個別の指導計画と自立活動の立案

本研究では、自立活動の基盤となる個別の指導計画の様式を整理し、教師が使いやすいように作成することで、自立活動の適切な指導に繋がるかを見てきた。特に様式を整理することで、指導内容と評価項目が明確化になった。それを受けて授業者である教師に「目標を意識した指導」の概念が定着し、その結果、適切な指導へと繋がった。評価のために指導を行うわけではないが、学校現場ではどうしても学期の終わりに作成必須となる成績表、いわゆる通知表を考えないわけにはいかない。評価業務と指導内容を整理したことが「目標を意識した指導」に繋がり、有効的であった。

本研究で提案した3段階評価の導入は、生徒自身が指導目標を意識しやすくなり、理解に繋がった。更に、保護者と教師が協働的な支援を行っていくために、端的かつ明確な表記は共感性の連携に有効的であった。

次に個別の指導計画を記入する際の教師の苦悩について考察したい。先程の質問用紙(表1)に挙げられていた「実態把握の難しさ」「計画の書き方」について着目する。まず、実態把握の難しさに関しては、中学1年生の接続期の生徒が挙げられてた。接続期の生徒は、中学校という新しい環境に適応しようと努力して、特性が顕著化しないケースがある。それは一見障害や特性を「改善・克服」したかのように見えるが、時間の経過と共に特性が顕著化してくる。学校生活が本格化し、特に行事始まると顕著化してくることが多い。この見極めは非常に難しく、学校生活に慣れるまで見取るしかない。このような接続期の実態把握についての見取り方については引き続き検討していきたい。

続いて「どのように表記すればよいのか悩んだ」との記述もみられた。そこからは、学習指導要領に示される「指導の概念」の理解の難しさがあると推測される。ここで学習指導要領に示される「強み」の概念について着目してみたい。

学習指導要領には「強みを生かす指導」をする

ことが示されている。しかし、自立活動の「障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服し自立を図るための指導」という定義から「困難を改善・克服」という表現が混乱させる要因であるような印象を受ける。そもそも「困難」と聞いてポジティブな印象があるだろうか。どうしても障害や特性を「弱み」と捉えてしまわないだろうか。その「弱み」をどうにか「改善・克服」するための指導を立案する思考になるのが自然であると考え。しかし、先に述べたように学習指導要領では「強み」に着目することが示されている。ここに表現理解の難しさの要因があると推測する。

そもそもここに示される「強み」の意図は、障害や特性を受容しつつ、代替できるもの等を駆使し、利用するなどして「強み」に変えて困難を改善・克服して自立を図ることである。例えば、コミュニケーションに障害や特性があり、集団活動が苦手であるが、クラスメイトとの会話には問題がない。しかし、授業中に空気を読むような発言ができない。その生徒の保護者は学年の生徒と交流を希望しているが、本人は交流についての希望は特にない。このようなケースの場合、本人の障害の特性上、集団が苦手であれば、集団活動を回避して自分の特性に合ったことだけをするという指導もできる。一方で交流活動の集団活動を通して困難を改善・克服できる指導の可能性もある。この指導に正解はない。だからこそ教師は個別の指導計画にどのように表記し、連携を図るための表現に苦悩するのである。しかしこれは、時間をかけて実態把握を行い、本人と保護者の願いを考慮して丁寧に作成していくことでしか解決できないだろう。本人と保護者の願いと指導内容を吟味し、丁寧に作成された個別の指導計画の上に自立活動の適切な指導は成り立つのである。

### 5-2 自立活動の記録シートの実践

アドホックな指導の中で取った記録は、日々変容している生徒の実態を把握するための重要な資料となる。個々の記録の蓄積がエビデンスとなり、個々の指導の指針となるだろう。このような資料は自立活動の経験が少ない教師にとっての指導の助けとなることが質問調査結果から得ら

れた。

表3の「指導の過程、様子が見て分かる」という回答においては、授業者が不在時でも代替への引継ぎに寄与したことが伺える。続けて「指導の中での改善点を考えるきっかけになる」との回答では、教師が記録シートで振り返りを行うことで、指導内容を整理し調整するための有効な手立てとなっていることが推測できる。記録シートが記録にとどまらず、指導の質を高める手助けの役割として活用されていると言えるだろう。これらの結果を踏まえて、記録シートは生徒の実態把握する記録という役割にとどまらず、教師の指導の質向上の一助にもなりうる可能性も示唆され、非常に有益であると考えられる。

記録シートの直近の課題としては、保管方法である。個人情報の扱い方については考えなければならない。今回は生徒が立ち入らない部屋で管理し、担任が保管した。数が増えると保管場所の確保が必須となるだろう。

## 6. おわりに

本研究では、自立活動の適切な指導の立案をすることを目的として、その基盤となる個別の指導計画に着目し、様式を整理して作成した。更に、記録の重要性にも着目し、記録シートを提案し、作成した。両様式内に自立活動の内容や評価の充実を図ったところ、適切な指導の立案に繋がった。これは教師が「目標を意識化」できるかが密接に関わっていることが示唆された結果である。

生徒は日々実態が変容し、困難が移行することは当然である。教師は常に実態を捉え直し、指導のPDCAサイクルを円滑に回すことが求められる。個別の指導計画と記録シートを効果的に活用することで、充実した指導へと繋がる。今後は自立活動の指導の更なる質の向上が求められるだろう。

## 7. 参考・引用文献

- ・牛島大典(2024)「特別支援学校(知的障害)における自立活動の指導の現状と課題についての一考察～A 特別支援学校における学校研究のかかわりを通して～」子ども教育研究会第2号,1-10.
- ・岡野由美子(2018)「アセスメントに基づいた特別の教育課程設定についての一考察～特別支援学級における、個別の指導計画を生かす日々の教育活動～」奈良学園大学人間教育学部,人間教育 1(10), 299-308.
- ・小坂みゆき・姉崎弘(2011)「小学校における『個別の教育支援計画』及び『個別の指導計画』の作成・策定と活用ー有機的な支援の連携をめざしてー」三重大学教育学部研究紀要,62,153-159.
- ・古屋義博(2024)「自立活動と各教科との違いを大学生にどう理解させるかー特別支援学校教員養成科目での2つの取り組みー」山梨障害児教育学研究紀要,18,11-19.
- ・文部科学省(2017)特別支援学校学習指導要領解説 自立活動編
- ・文部科学省(2023)「通常学級に在籍する障害のある児童生徒への支援に係る方策について(通知)」(4 文科初第 2441 号令和 5 年 3 月 13 日) p.14.
- ・山梨県(2024.2 改訂)「個別の教育支援計画」作成と活用の手引き,P6.
- ・山梨県教育委員会(2019)「個別の教育支援計画(特別支援学級用)」  
<https://www.pref.yamanashi.jp/tokushijiseishien/tokubetsushien/kobetusidoukeikakutokubetusienngakkyuu.html> (2025.1.16 アクセス)
- ・福岡県庁(2021)「個別の教育支援計画・個別の指導計画の新記入例」  
<https://www.pref.fukuoka.lg.jp/contents/kobetuyousiki.html> (2024.6 アクセス)
- ・山口県(2021)「個別の指導計画の記入例」  
<https://www.pref.yamaguchi.lg.jp/soshiki/181/26577.html> (2024.6 アクセス)